

(別記)

令和2年度豊橋市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

豊橋市は、概ね平坦な地形と穏やかな気候により農業生産に恵まれた地域であり、農業産出額 434 億円となっている。この内訳は、野菜 56.6%、畜産 26.3%、果実 6.0%、花き 5.1%、米 4.2%で(注1)、野菜と畜産で 80%と高く、米の割合が低いことが特徴である。

(注1) 農林水産省 市町村別農業産出額(推計)より

【水稲】

本市の耕作面積は計 7,490ha で、うち水田は 2,450 ha(本地 2,320 ha)であり、畑作面積の半分以下となっている。(注2)

地域ごとにみると、西部は水田の1筆あたりの面積は広く、畦畔も小さいため、作業効率が良く、担い手が確保されている。一方、北東部は準山間地域で作業効率が悪いため、担い手の不足が顕在化しつつある。

(注2) 令和元年市町村別耕地面積(市町村別統計)より

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

本市の主力品種は「コシヒカリ」、「あいちのかおりSBL」、「あきたこまち」の3品種である。

水田の担い手農家は、農作業を受託するオペレータが主で、需要動向や集荷業者等の意向を勘案しながら、品種の早晚、移植と不耕起V溝直播のバランス、食味の向上などを考慮し、さらなる経営規模拡大と競争力のある米づくりを追求している。夏季の著しい高温により品質が低下することがあることから、施肥改善などの対策を進めるとともに、「こだわり栽培米」の取組みなど、消費者に選ばれる米づくりを推進していく。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米は、愛知県経済農業協同組合連合会を通じた取組みが主であり、当面は出荷契約先の確保に困ることなく取組拡大が可能とされているが、本市においては、乾燥調製や荷受け環境が整っていないため、関係機関と調整を図りながら取組みを推進していく。

平成30年より、生産数量目標の縛りがなくなり、飼料用米の取組み量が減少しており、飼料用米の作付けを維持するため、多収品種に比べて取組みが容易な主食用品種による飼料用米の作付けについて支援を継続していく。

また、全国では飼料用米多収品種の取組割合が50%に達する一方、本市の飼料用米多収品種の割合は約20%と低くなっている。そのため、県が推奨する「もみゆたか」以外の多収品種についても導入する取組みを支援していく。

イ 米粉用米
取組みなし

ウ 新市場開拓用米
内外の新市場の開拓を図る米づくりに対し支援していく。

エ WCS用稲
稲作農家と実需者である酪農家が生産利用組合をつくり、専用収穫機やラッピングマシンを共同購入・共同利用することで取組みを進めている。
WCS用稲は品質にばらつきが出ることが課題となっているため、生産性及び品質の向上を図るために、専用品種の作付けを進めるとともに、不耕起V溝直播栽培、疎植栽培、乳酸菌添加、密苗栽培などの栽培技術の導入を促すことにより、取組拡大を図っていく。

オ 加工用米
加工用米については、複数年契約等、需要に応じた生産を推進しつつ作付面積を維持していく。

カ 備蓄米
国の方針に即した集荷業者等の割り当てに応じ、継続して取組んでいく。

(3) 麦、大豆、飼料作物

本市ではブロックローテーションが成立しておらず、麦・大豆の連作となることから、除草対策に苦慮するほ場が多い。このため、麦では、難防除対策やタンパク質含有量増加のための追肥、湿害対策の実施を促すことにより、収量増加と品質向上を図っていくとともに、作付面積を増やしていくことで、将来的なブロックローテーション導入を目指していく。また、大豆では、播種時期の遅れ等により、収量が愛知県の目標収量を大きく下回っていることから、播種時期を前進化や中耕・培土作業、狭畦栽培、湿害対策の実施により、収量の増加・安定化を目指していく。

また、飼料作物（飼料用トウモロコシ）についても、WCS用稲と同様に稲作農家と酪農家で構成する生産利用組合を中心に栽培を進め、栽培技術の構築に努め、今後の取組拡大を図っていく。

(4) そば、なたね
取組みなし

(5) 高収益作物（園芸作物等）

水田を活用した野菜づくりについて、米の需給調整に資する取組みとして今後も作付面積の拡大を推進する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
----	---------------	-----------------	--------------------

主食用米	1,689.7	1,685.5	1,685.5
飼料用米	92.8	102.0	102.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	1.6	2.7	2.7
WCS用稲	50.3	50.0	50.0
加工用米	2.4	2.0	2.0
備蓄米	4.8	5.8	5.8
麦	18.4	33.0	33.0
大豆	12.4	12.5	12.5
飼料作物	0.0	0.3	0.3
そば	0.0	0.0	0.0
なたね	0.0	0.0	0.0
その他地域振興作物			
野菜	4.3	5.0	5.0

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	目標値	
				前年度(実績)	目標値
1	小麦 (基幹作・二毛作)	小麦の品質向上	取組面積	(元年度) 1,594a	(2年度) 2,400a
2	小麦・大麦 (基幹作・二毛作)	麦類の面積拡大	新規取組面積 (延べ面積)	(元年度) 389a	(2年度) 800a
3	大豆 (基幹作・二毛作)	大豆の収量増加	取組面積 収量	(元年度) 1,195a (元年度) 10kg/10a	(2年度) 1,250a (2年度) 142kg/10a
4	飼料用米(もみゆたか以外) (基幹作)	飼料用米多収品種の支援	多収品種(もみゆたか以外) 導入面積	(元年度) 1,772a	(2年度) 2,000a
5	飼料用米(主食用品種) (基幹作)	飼料用米(主食用品種)の生産性向上	取組面積 (主食用米、多収品種)	(元年度) 7,122a	(2年度) 7,800a
6	WCS用稲 (基幹作)	WCS用稲の 生産性・品質向上	取組面積	(元年度) 5,030a	(2年度) 5,000a
7	野菜(高収益作物) (基幹作・二毛作)	高収益作物(野菜)への助成	取組面積	(元年度) 432a	(2年度) 500a
8	飼料用米 (基幹作)	わら利用(耕畜連携)への助成	取組面積	(元年度) 1,631a	(2年度) 1,500a
9	転換作物等 (麦、大豆、飼料用米、 新市場開拓用米及び別 紙高収益作物) (基幹作)	転換作物等 拡大加算	麦作付拡大面積 大豆作付拡大面積 飼料用米作付拡大面積 新市場開拓用米作付拡大面積 野菜作付拡大面積 合計	—	(2年度) 1,460a 170a 1,470a 30a 90a 3,220a

10	高収益作物等 (加工用米、新市場 開拓用米、飼料用トウモ ロコシ及び野菜) (基幹作)	高収益作物等 拡大加算	加工用米作付拡大面積	—	(2年度)
			新市場開拓用米作付拡大面積		10a
			飼料用トウモロコシ作付拡大面積		30a
			野菜作付拡大面積		30a
			合 計		90a
11	飼料用米 (基幹作)	飼料用米複数年 契約取組加算	取組面積	—	(2年度) 3,830a

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり